

現代音楽家によるクレズマー音楽のジャンル認識の一考察

—スティーブン・グリーンマンの創作と演奏活動の事例から—

三代 真理子(東京藝術大学教育研究助手)

今日のクレズマー音楽の「伝統」は、1970年代以降、復興者らが主に20世紀初期の米国と東欧の音源・楽譜資料に基づき調査と解釈を進めてきたことにより、再構築されてきたものである。再構築された「伝統」は、復興者ら主催の演奏指導ワークショップ等で、音楽様式や曲目として共有されてきたが、復興者毎に調査に用いた資料やその解釈が違ふこと、またこの音楽を特徴づける様式にはニュアンス的部分が多く言葉での説明が難しいこと、等の理由から、十分に統一された見解が得られていないと言える。

発表者は、現代音楽家によるクレズマー音楽の「伝統」の解釈を明らかにすることを旨とし、彼らがこの音楽に属する諸ジャンルをどう特定してきたかという観点からアプローチしてきた。前述の通り、復興者らは共通のジャンル認識を持つ一方で、個人により異なる解釈もまた持つため、現代音楽家全体のジャンル認識を明確にするには、代表的な復興者らの解釈を個別に精査する必要がある。従って初めに、現代クレズマー音楽界を牽引する音楽家の一人、スティーブン・グリーンマンに着目した。彼は東欧の「伝統」に根差す復興者として、現代における「伝統」の伝承の場で主要な役割を果たしてきた。それ故、現代音楽家による「伝統」の解釈を示す上で、彼の作品および演奏録音は適切な調査対象と言える。

本発表では、グリーンマンの言説を通して彼のジャンル認識を示し、また創作や演奏で意識的または無意識的に実践されているジャンル別の音楽的表現を、具体的に明らかにする。まず創作曲に関する本人解説映像で、彼の、ジャンルに関する解釈と創作への表現法について調査する。次に、彼の発言内容と楽譜・録音を照合し、音楽構造や演奏表現にどう表れているのかを分析する。併せて楽譜・録音を分析し、彼が言及していない、無意識にジャンル毎に使い分けている音楽構造と演奏表現上の特徴を特定する。